

【全体概要】

愛知県内の冬春キュウリ産地では、環境モニタリングデータを活用した環境制御が行われている。民間のICT企業が開発した土壌水分モニタリングセンサーを活用し、地上部と地下部両方の環境制御技術を高度化し、生産性の向上を図る。

新品種・新技術等の概要

「土壌水分モニタリングセンサー」

開発者：(株)IT工房Z(名古屋市中区)
開発年：2018年2月

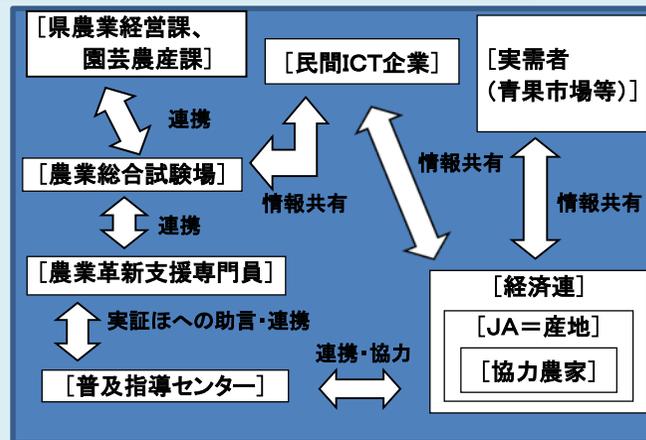
特徴：

- ①土壌水分状態がモニタリングできる。
- ②環境モニタリングシステム「あぐりログ」に接続し、クラウドを利用してスマホやPCでデータを確認、収集、蓄積できる。
- ③モニタリングデータは仲間同士で共有可能。



土壌水分モニタリングセンサー

実施体制図



・農業革新支援専門員は、普及指導センター、試験場と連携し、実証試験への助言や支援を実施。

・協力農家は、実証ほの栽培管理とICT機器の管理を行う。

・普及指導センターは産地と連携、協力し実証ほの調査を行う。

実績と今後の展開

【実績の概要】

- 地上部地下部環境モニタリング、生育・収量調査の実施により、生育ステージごとのかん水管理を明らかにした。
- 実証結果を取りまとめ、土壌水分モニタリングセンサーを活用した環境制御マニュアルを作成した。
- 土壌水分モニタリングセンサー活用0戸(H30)から10戸(R2予定)に拡大。

【今後の展開】

- 環境制御技術の高度化によりさらなる生産性の向上と普及拡大を図る。
- ナスなど他品目での地下部環境管理への活用をすすめる。

主な取組内容

- キュウリにおける環境制御技術の高度化に向け、実証ほを2普及指導センターで設置し、地上部及び地下部環境のモニタリング、生育診断のための生育・品質・収量調査を実施(H30 5か所、R1 4か所)
- 環境制御マニュアルの作成(R1)
- 産地と実需者との意見交換(H30 2回、R1 2回)
- 土壌水分モニタリングセンサー改善のための産地とICT企業との情報交換(H30 2回、R1 11回)